

環境審議会におけるこれまでのご意見について

●二酸化炭素排出量の削減・吸収

- ・二酸化炭素排出量ゼロとは具体的にどういうことを想定しているのか。
⇒（環境計画課長）省エネ・再エネの取組みを進めるだけでなく、みどりの保全等により達成していくことを想定している。
- ・同時解決という考え方が重要である。二酸化炭素の排出削減だけでなく、協働や教育などとの同時解決につなげてほしい。
- ・現在の「削減」からプラスマイナスゼロにしていくということだが、どのようなプロセスで実質ゼロとしていくつもりなのか。
⇒（環境計画課長）審議会で議論していただきながら進めていく。一つの方策としては、川場村の森林保全やカーボンオフセットなど自治体間連携を踏まえた方策も考えられると思う。
- ・「削減のための活動をした」という事実だけでなく、どのくらい対策したらどのくらいの削減につながるのか、そういうものを示していけるとよい。
- ・二酸化炭素排出量の「削減」という表現はよく出てくる。「吸収」も重要であるので、みどりの保全と創出を進めてほしい。
- ・二酸化炭素の吸収の試算であるが、1本の木があるとどの程度か、そういうことがわかるとよい。
- ・温室効果ガス削減量の検討について、積み上げ案とバックキャスト案を常に並べてみて、積み上げをバックキャストに近づけていくことが、計画論として分かりやすい。
- ・計画の方向性は間違っていないと思う。削減量の試算結果から、光明は見えていると感じている。環境保全と経済が対立軸ではないことを広く発信していくことが重要である。
- ・CO₂排出量を部門ごとに積み上げた折れ線グラフがあって、これを各部門でどの程度減らせば達成されるのかがわかるダイアグラムが資料の序盤にあると、区民の皆さんにも分かりやすく、協力を得やすいと思う。

●めざす将来像

- ・「自然の恵みを活かして小さなエネルギーで豊かに暮らす」を区民がどう感じるかだと思ふ。農山村地域ならびったりだと思ふが、世田谷区という住宅地の暮らしの中で都市部の大事な自然の恵みを活かすという主旨の言葉に変更できないか。「再生可能エネルギー」という言葉を出してもいいのかと感じた。
- ・「自然の恵みを活かして小さなエネルギーで豊かに暮らす」は、現行計画の将来像で

ある。それを引き継ぐということかと思うが、見直しに当たって変えても構わないと思う。温暖化対策の技術的な要点は、省エネを進め、残ったエネルギーを再エネルギーに転換していくことに尽きる。世田谷区は大きなまちではあるが、あえて自然の豊かさを打ち出したと思うが。

- ・「実質ゼロ」なので、排出と吸収でプラマイゼロにしていくことかと思う。資料を見ると、出す方をいかに少なくするかを考えていると思うが、吸収についてももう少し考えていくことが必要だが、あまり言及されていない。具体的な議論に入れてほしい。「自然の恵みを活かした」の中に吸収も入っていると思う。世田谷らしい部分なので、そのあたりももう少し書き込んだほうがよい。
- ・世田谷らしいスタイリッシュなことばに変えていくべきだと思う。そのために、世田谷らしいライフスタイルが何なのかを考えていかなければならない。
- ・「自然の恵みを生かして小さなエネルギーで・・・」は漠然としていてわかりづらいし、農村感があり、世田谷らしくない。世田谷らしい自然との共創で、といった言葉が入るとよい。小さなエネルギーは、小水力発電を想起する。世田谷らしさを書いた方がいいと思う。

●地球温暖化適応策

- ・二酸化炭素排出量の抑制はもちろん大事であるが、去年の台風被害などもあり、世田谷区における適応策の大切さが一層増している。適応策は防災や都市整備などの関連もあるが、どのように記載していくのか。
⇒（環境計画課長）気候変動適応法に定める計画に位置付ける。その中で、豪雨対策やヒートアイランド対策などを明記していく。
- ・適応策のボリュームとしては、現計画は2ページ程度であるが、そのボリュームを増やしていくという認識でよいか。
⇒（環境計画課長）その通りです。
- ・グリーンインフラと関連するが、自然面を大事にすることは都市環境改善の意味で重要である。地表面の温度を抑え、結果としてゲリラ豪雨対策にもつながっていく。
- ・グリーンインフラは大変すばらしいアイデアであるが、一般の人たちと話すとき認識されていない。もっと啓発が必要である。
- ・グリーンインフラの関係は非常に興味深く、ぜひ進めていくようにという意見があったが、区民に分かりやすくするという点が必要である。例えば資料にイラストを上手く使いながら区民に理解いただくこと、それが日常生活にどのように関わってくるのか、樹木が1本あること、このくらいの面積のみどりがあるとどのくらいCO₂減るのかといったことが分かるとよい。二酸化炭素排出量実質ゼロの説明に森林という言葉が出ているが、区内ではむしろ樹林ではないか。そういった身近なところに置き換えていくことが必要である。
- ・グリーンインフラの言葉の使い方が、資料によって異なり、分かりづらい。様々なものが該当するとは思いますが、何を称してグリーンインフラと区は定義しているの

か。言葉の使い方を検討すべきである。

- ・グリーンインフラをもっと区民が自分たちのものとして見える形にすべきである。広報で特集すると分かりやすいのではないか。
- ・豪雨対策については、災害対策として、雨水流出の時間を稼ぐという意味で浸透、貯留を進めているが、一方で緑化等を通じてグリーンをもっと有効に使おうという施策も進めている。同じ水を活用するという意味で、これらの間を埋め、両者の橋渡しをする施策を考えてほしい。

●省エネルギー

- ・世田谷区は住宅が多いことが特徴であり、一方コロナの影響で価値観の多様化も進んでいる。省エネと言いながら、換気したり、テレワークの増加により、個々のエネルギー消費は増加している。一方、震災の時は1か所に集まってシェアするという流れであった。こういったことに対応できるようになることが必要になる。
- ・省エネポイントアクションの指標については、家族レベルでのライフスタイルがどのくらい省エネに関わるのかが伝わり、興味深い。自ら目標設定をし、評価をする各個人の取り組みは大事である。こういったソフトの取り組みが今後は重要になると考えている。
- ・省エネポイントアクションの実績については、例えば学生が結果を分析してみてはどうか。気温や在宅時間など、ある家庭を取り巻く状況が変わっていった中で、どのように数字が増減するのかが分かるとよい。
- ・環境配慮型住宅リノベーション事業について、ハウスメーカーが家を建てるときに、個人の施主にきちんと説明されていないのではないか。個人への見える化がなされるとよい。
- ・降水だけでなく、節水も間接的にCO₂削減に貢献する。水についてもしっかり議論した方がよい。
- ・新築建築物の対策はとりやすいと思うが、既存の建築の対策をぜひ進めてほしい。国全体で新築は減り、中古の流通が盛んになっていく流れは明らかである。中古の流通時にリフォームがなされるので、そのタイミングで省エネ対策をとってもらえるとよい。具体策は今後一緒に考えていけるとよい。

●道路・交通・まちづくり

- ・世田谷区は幹線道路が多いかと思う。車への対策を区としてどこまで実施するか、という観点も必要になる。
- ・コロナの関連で自転車の利用者が増加し、国道246にも多くの利用者がいる。246や世田谷通り等の車線を変えていくなど、自転車利用を正式に位置付けていきたい。
- ・駐輪場もかなり混雑しているので、ぜひ整備を進めてほしい。
- ・コロナで車の利用も増加している。このことについてもどう対応していくか検討が必要である。

- ・区民・事業者の環境配慮行動の促進を、道路や公園を含む都市のインフラや、土地利用の観点から進められるとよい。例えば、なるべく歩ける街づくりや、土地の被覆をアスファルト等から土に戻すことや、道路を一方通行にして歩行空間を確保することや、グリーンインフラの導入など、都市部局との連携で進めてほしい。
- ・CO₂を実質ゼロにするためには都市の土台を変えることが重要である。土台づくりに当たって、区の公共事業は大変影響が大きい。また、区の施設も含めて、区として、都市インフラをどれだけ変えられるか考えてほしい。
- ・脱ガソリン車に対して区としてはどう進めていくのか。
⇒（環境計画課長）これまで、計画上では次世代自動車の普及率を指標として掲げてきた。今後は庁有車への電気自動車の導入促進をするなど、区役所自身も進めていきたい。
- ・ハイブリッド車もガソリンを使用しているので今後の扱いは変わるかもしれない。庁有車以外も進めていく必要があるのではないかな。
- ・骨子案4ページの下に書いている区民、事業者の対策の考え方に、「移動」という言葉を入れていただければ。
- ・移動ということもあったが、世田谷らしく、世田谷の中で1つ完結してしまうライフスタイルを提唱して、なるべく移動距離が少ない範囲で活発に動かして経済を回していくということも考えてみたらいかかがか。その方が省エネではないかな。
- ・総合的、計画的に加えて統合的という言葉もいいのかと思う。例えば、2ページに書いてあるまちづくりとみどり、それから緩和策と適応策の両輪というところを見ると、例えば、自転車利用を促進したり、自動車利用を抑制したり、それから道路上にみどりをどんどん植えていく、あるいはグリーンインフラで雨水マネジメントをすることといったことを考えた場合に、やはり道路の在り方を抜本的に変えないとこの目標は達成できないと思う。今の書き方だとそれぞれの施策を進めていきますとしか書いていなくて、そうではなくて、例えば思い切って道路の一方通行化をして、そうすると車道が少し減るので、その空いたスペースに自転車道とかグリーンインフラを入れていくような、かなり抜本的な統合施策を入れないと目標が達成できないのではないかな。書いてあることはそのとおりだが、実施する上で、かなり統合的、あるいは戦略的にやっていないと目標が達成できない。具体の対策として、何か新しいメニューを入れるということではなく、書いてあるメニューを実施するにあたっての効果的なやり方を入れてほしい。
- ・脱炭素のまちづくりの中に、キーワードとして「ウォーカブルなまちづくり」が入ってきてもいいのではないかな。要するに、ウォーカブル、歩きやすいまちづくりという中には、拡幅だけではなく、例えば一定間隔、交差点ごとに木陰があるとか、かんかん照りのところで交差点待ちするよりは木陰で待てるとか、交差点ごとに一休みできるとか、ちょっとしたところであれば歩いて行けるようなまちづくりをすることによって、自動車でコンビニに行かなくても済むようなまちづくりになっていくのではないかな。その意味では、審議資料1-2の交通のお話で鉄道、車、自転車という言葉はあったが、やはり人の立場からの施策が少し見えにくい。ウォーカ

ブルなまちづくり戦略をやっているようなセクションがあるのであれば、もっとみどりと関連のまちづくりを打ち出していてもいいのではないか。

- ・交通まちづくりのところで開かずの踏切や鉄道の整備をされているかと思うが、その辺りの土地を買取り区が整備されていて、今まで使われていた方が、安全性を守るためだと思うが、もともとみどりがあった場所をなくして道路というか、アスファルトにしてしまって、その近辺、全体的にみどりが減っていたりする。それは少々好ましくない傾向だなというのがまちを歩いていて感じる。今回このお話を聞いて感じたのが、その辺りをもう少し工夫して、先ほどもウォーカブルとか、信号待ちのときにグリーンがあると歩きやすいという意見もあったように、そこに少しみどりを増やしていく取組みであったり、歩きやすい場所に整備していくなど、そういう視点を持っていたりするものなのではないか。
- ・何かきっかけがあればみんな歩く。そうすれば車も使わない、自転車だったり歩きだったり。CO2のことまで、そこまでみんな考えては歩かないと思うが、そういう空間になることがこれから求められるのではないか。
- ・運輸部門のCO2を削減するために、もっとみんな歩くべきだと思うが、そこがまだ弱いなと少し思います。ぜひ、先ほどの委員の交差点のところに日よけ、木が無理としても少し環境に配慮したような屋根をつける等をする、炎天下でも非常に楽だし、まだまだ世田谷区としてできる、そういうウォーカブルなまちづくりというのは、案が出てくるのではないか。
- ・商店街の事情としましては、やはり委員が恐怖しているように、後ろから自転車が来るなどということで、何とかならないかと事務局のほうにも連絡が来ているが、今、世田谷区の方と押しチャリというか、まちの中心になったら自転車を降りようという運動を起こそうと動いている最中である。ブルーゾーンがあるが、これが結局、自動車が止まっていることで、ブルーゾーンをよけてバスの前へ出てしまおうとか、逆に歩道へ入り込んできて、そこで小さい子どもとかお年寄りとぶつかっているような事情があるので、この辺を何とかもうひとつ踏み込んで整備していただきたい。
- ・いろいろな場所で公園を造られたり、そういうインフラを整えていますというお話が出ていたと思うが、歩いた時などは、それは連続して見えてくるので、ぜひそれを線で捉えて施策をつなげていていただきたい。

●エコ・ディストリクト

- ・私は、ソフト施策に加えて、ハード施策も積極的に展開する必要があると考える。世田谷区は全城市街化区域である。区全体を考えて行動を起こすことも大事だが、地区のスケールでハード、まちづくりを考えるとよい。具体的には、小学校区、中学校区のスケールをイメージしている。都市計画を勉強していると、教科書となる書籍で太子堂地区における住民参加のまちづくりが取り上げられている。このように、世田谷区には住民主体のまちづくりの実績がある。それに地球温暖化対策の要素を加えることで、もっとよくできると考える。都市整備部が進めるまちづくりに

環境政策部が進める地球温暖化対策を加味していくことが重要である。ポートランドのエコ・ディストリクトは、必ずしも新しいまちをつくるものではない。建物を少しずつリノベーションしていくイメージである。取組みには、緑化、再生可能エネルギー、公共交通、グリーンインフラなどの要素が含まれる。関係者を組織化して対策を検討し、資金を確保し、地区のまちづくりとして行っていくものである。研究中のものであるが、建物や道路からの二酸化炭素排出量を推計して可視化した都市地域炭素マッピングについて紹介したい。こうしたデータを活用しながら地区スケールのエコなまちづくりを、環境政策と都市計画が連携して展開できるとよい。

- ・イノベーションを起こすのに十分な小ささと意味のある影響をもたらす大きさの概念は、まさにそのとおりだと思った。発電、ごみ排出量などを見える化して、地域間の切磋琢磨を促していけるとよいと思った。
- ・ポートランドのような形は理想的だと思うが、地域の歴史、背景を踏まえてよい部分を取り入れていく形になると思う。太子堂まちづくり協議会、深沢環境共生住宅、二子玉川（エリアマネジメント）の動きなど、参加型で取り組んできたベースは非常に重要である。脱炭素型ライフスタイルを実現するためのグループを継続的につくっていくことを大事にしてほしい。そういった区民の意見を吸い上げて進めていくことが重要である。

●みどり

- ・みどりを活かした地球温暖化対策の推進という項目があるが、まちなかを見ると、生産緑地が失われ建売住宅になっている。そうしてみどりは減っている気がする。建売の建物には植栽があまりない。ある程度の植栽を促す方向に行ってほしい。
- ・資料1-1の2ページにみどりを活かしたと書かれているが、保全とか創出という言葉がもう少し出てきてもよいと感じた。
- ・道路でいえば、国道、都道もあるが、区道もある。区道でできることで積極的に実施する。道路に接した民地の接道部に木陰を入れるため、1本木を植えるなど。そういった政策展開ができるのではないか。そうしたことが、緑豊かな住宅都市のアイデンティティにつながっていくのではないか。
- ・審議資料1-4「みどり33と気候危機対策」（令和4年第2回環境審議会）の5枚目のスライドに、気候変動を視点としたみどりの見える化が必要、みどりの新たな価値を評価と記載があるが、道路から見えない樹木も省エネルギーやCO₂吸収の効果があり、個人宅、私有地も含まれると理解した。これについて、私有地にも樹木を植えることを強制するような施策になると危険だと思った。私有地に植えられた木の落ち葉が隣家の敷地に落ち、近隣トラブルに発展することがある。そういったことを踏まえて施策を進めてほしい。
⇒（みどり33推進担当部長）落ち葉の問題というのは、会長のご発言のとおり、非常に古くて新しい問題であり、みどりが厄介者にされている側面が非常に強い

中で、落ち葉などの負の部分を受け入れながら、増やし維持していかなくてはいけないという意識を、一般の区民の方々にも理解していただくことが必要だと思っている。その第一歩として、みどりの効果の見える化ということを考えている。これをどのように浸透させていくか。気候変動と絡めてみどりの大切さを理解していただくかについて、庁内で施策を練っていききたい。

- ・みどりが厄介者になるという考えなど、色々なメッセージがあり、事態を複雑にしていると感じた。シンプルでわかりやすいメッセージを伝えないと、動いてもらえない。考え抜いたメッセージをシンプルに伝えていくことが必要である。
- ・みどりが減ってきているという話があったが、区はかなりがんばって緑を増やしてきたと思う。むしろ農地をはじめとする民地で減っていることをもっと訴えてよいのではないかと思う。
- ・ウォークアブルなまちづくりについて、素案たたき台の p. 61 に詳細があるが、みどりの立場としては、みどりととの関係で語られていないのが物足りない。交差点ごとにみどりがあれば、暑い時期に木陰になって歩きやすくなるといった書き込みがあるとよい。
- ・面としてみどりがあることも、ヒートアイランド、豪雨災害の緩和の視点から重要である。審議資料 1-4 「みどり 33 と気候危機対策」(令和 4 年第 2 回環境審議会) の p. 4 あたりにそういったことが書かれていてもよい。
- ・全体的な取組みとして、相続時に減っていくみどりについて、大規模敷地を物納する際に更地になることへの対策があってもよいのではないか。住宅地のみどりの保全、創出について、もう一步踏み込んだ検討がなされてもよいのではないか。
- ・保存樹木、世田谷トラスト、生産緑地の保全など、世田谷区はみどりに力を入れている自治体だと思っていた。既存の取組みをパワーアップすることで輝くことも非常に多い。今ある取組みを広げていくことを考えてほしい。
- ・川場村のことも視野に入れて、森林環境譲与税も含めて活用していただき、あわせてみどりの保全として考えていただければと思う。

●住宅・建築物

- ・家を建てる際にハウスメーカーから施主に、環境、エネルギーの取組みがどのくらい必要かという説明が一切無いようだ。区は要請しているのか。また、住民は、自分たちからは情報を取りにいかないものである。その点について、どのような取組みを考えているのか。
- ・不動産取引に際しては重要事項説明が行われることになっているが、それが十分機能していないので、ローカルルールがあってもよいのではないかと意見であったと思う。極端な話を言えば、区が予算措置で担保しようとしても、お金は無尽蔵にはない。逆に、ルールにするのであれば条例で動かすことができる。外国では、新築だけでなく、リノベーションや賃貸住宅の契約時にも、環境に関する事項も説明、表示しなければならないことになっている。日本にも、そういったローカルルールがあってもよいと思う。

●区民への働きかけ

- ・ごみの削減もそうだが、区民の努力を評価して意欲につながるようにしてほしい。経済成長と二酸化炭素の排出量は相関するイメージであったが再エネの導入など意識が変わってきている。ぜひ区民の後押しをしてほしい。
- ・いかに区民に省エネをしてもらうかが重要である。そのためには何か付加価値がないといけない。例えば ZEH であれば、省エネであり、かつ「快適」である。世田谷区は住居が多いので、そういった住民のメリットからゼロエミッションにつなげていく方法がよいのでは。「これをやらないとダメ。」という書き方ではなく、メリットがあるという書き方にまとめると良い。
- ・例えば、子どものいる世帯は環境教育を通じて子どもから情報が伝わってくるが、子どものいない世帯では自ら区の広報へアクセスする必要がある、内容も分かりづらいなどの問題点がある。関心がない人をどう巻き込むかといったきっかけづくりが大切になる。
- ・区民の意識改革・意識の浸透が重要である。90万人の区民が一気にやれば大きな効果になる。ひとつぼみどりのように、上手く区民に浸透していくとよい。
- ・世田谷区気候非常事態宣言を表明し、今後はライフスタイルの変容が必要となってくる。グリーンインフラやグリーンリカバリーがそこにつながっていくのか疑問に感じる。福祉であれば近くで相談できる場がある。環境について区民が聞ける場づくりを区民目線で考えてほしい。
- ・様々なことを伝えるという話があったが、伝えると伝わるはまったく違う。ぜひ伝わる仕組みを検討していただきたい。
- ・骨子案4ページにある区民の対策は、何をするのかわからない。いくつかのメニューがある中で、これをやればよいというものが見える形で示されていると、自分達のこととして考えることができるのではないか。

●計画改定全般

- ・区のあらゆる政策に温暖化対策を溶け込ませていけると良い。
- ・環境基本計画では検討部会を開いたが、今回はどうするつもりか。
⇒（環境計画課長）環境コンサルタントと契約し、検討すべく、予算要求している。部会を設置することは考えていないが、学識経験者の方に意見を頂戴していると考えている。
- ・温対計画の改定では、政策自体も上乘せしていかなければならない。例えば、環境配慮制度の上乗せも考えられる。
⇒（環境政策部長）温対計画の改定に合わせ、環境配慮制度自体の改定も考えていかなければならないと考えている。
- ・CO₂削減目標に関して、個人一人ひとりがどれだけCO₂を削減する必要があるか、という目標設定もするのか。
⇒（環境計画課長）区全体のものを設定する。区民一人当たりの目標等は今後検討して

いく。

- ・「区民・事業者・区」という表現をよく見る。世田谷区は大学が23区で一番多い。大学は事業者に含まれるのかもしれない、また、学生は地元住民ではないかもしれないが、その点が見えづらいので、検討していただきたい。
- ・CO₂の発生という観点からは、例えば「滞在者」として、学生や就業者なども対象に含めて計画に定めることができるとよい。例として、京都市は「観光客」の責務を条例に明記している。
- ・脱炭素のモデルを物だけで見ていくのではなく、人と人とのつながりも配慮する必要がある。脱炭素と人権や社会的排除の問題をどのように同時解決していくのかを考えることが重要ではないか。
- ・審議会での意見を踏まえ、区の実情を踏まえて、区の実情を踏まえて進めていただきたい。
- ・計画の目標設定はどのような手順で決めていくのか。
⇒（環境計画課長）審議会での議論を踏まえながら、目標を設定していくことになる。
- ・これからはソフトとハードのインフラの有機的な連関が重要になってくる。ハードインフラは土木施設をはじめとする設備環境の整備が重要であるが、ソフトインフラである人づくり、ネットワークなどを連動させていく仕組みが重要になる。ハードとソフトをつなぐ中間支援的な仕組みを考え、両方をつなげる場をつくっていく必要がある。効果的、効率的に連動させる仕組みづくりについて検討願いたい。
- ・グリーンリカバリーについては、コロナ禍からの復興を機に社会経済や暮らしを環境にやさしい形、グリーンに転換していこうというものと認識している。経済対策としてのグリーンリカバリーは、環境配慮型住宅リノベーションになるが、幅広く捉えれば、リモートワークの普及で身近なところで生活する時間が増えた区民の暮らしをバックアップしていくことが重要ではないか。例えば、拡大した自転車利用に対応するため自転車レーン、駐輪場を整備する、営業を再開した飲食店のフードロス減らす活動を後押しするなど、広い意味でグリーンリカバリーを捉えるとよいと思う。
- ・令和3年度第2回環境審議会の意見を総括すると、全般としては、区民、事業者の力が出せるような仕組みをつくること、各論としては見える化、個人への情報伝達が各施策について行われる必要があるということが共通していたのではないかと。
- ・ヨーロッパでは、ライフスタイルの選択という言葉が、共創に置き換わってきている。お互いに共創感を生み出していくことが求められている。ライフスタイルの共創という言葉を使いながら、対策を示していけるとよい。
- ・多様な政策をうまくまとめていると思うが、短期間で高い目標を達成しなければならないという中で、どこかを重点的にしていかなないと達成は難しいと感じている。総花的にいろいろ書くことは計画として必要だが、目標達成のためにどこに重点を置くと効率的に達成できるのかという視点を置くとよいと思う。
- ・温室効果ガス排出量について、東京都の排出量を按分して算出しているため、世田谷独自の対策を行った際に、それによってどの程度削減できたのかがわからない。これでいいのかという問題はある。企業、大学の実データ、登録された車のデータ

- を集めるなど、少しでも世田谷区の政策効果がわかる仕組みが必要ではないか。
- 骨子案2ページに幅広い分野をつなぐ総合的・計画的な対策とあり、そのとおりだと思うが、後段のところであまりその点が記述されていない。
- 例えば道路政策・みどり政策などの統合。そういったことが戦略的、統合的な取組につながっていく。交通は区で完結しないが、区内で完結する世田谷線でもっと工夫ができればよいと思う。民地も。統合的な活動が発揮できれば、重点的な取組につながると思うが。
- 骨子案の5ページにある区民の対策、事業者の対策、区の施策の方向性が総花的なので、区民がこれをするために区が何をするという縦軸にテーマ、横軸に区民・事業者・区の取組を書くなど、マトリクスができると議論しやすいと思う。
- 地球温暖化対策地域推進計画では、ハード、ソフト、様々な要素が出てくる。ソフトも大事だと思うが、その中でも人々をつなげる場の機能、中間支援が大事である。まちづくりを進めていくのであれば、人と人、ソフトとハード、様々な主体をつなぐ場の機能が重要である。
- 世田谷区の取組は、かなり前進していると思っている。それをさらに加速させていく取組を追加していくとよいと思う。そういうものに対して、PDCAを回す形で国の施策も追加されていくことで、野心的と言われる48%に世田谷区も迫ってほしいと思う。
- 審議資料1-10「区における温室効果ガス排出量削減に向けた施策集（たたき台）」（令和4年第2回環境審議会）には、国の対策効果に加え、区が独自の対策を実施すればどの程度積みあがるということが示されていると思うが、何十パーセントの世帯が実行したらという、区民の活動に依存した推計になっている。補助金制度、啓発の仕組みを作っても、行動に移すのは区民の判断である。区民に実行してもらう見通しをどのように考えているのか。
 - ⇒（環境計画課長）審議資料1-10「区における温室効果ガス排出量削減に向けた施策集（たたき台）」（令和4年第2回環境審議会）は、審議会において議論いただいた後、気候危機対策会議に持ち帰り、ご意見を踏まえて、どの対策を率先して進めていくか、実現可能性や達成率を何%まで目指していくかといったことを精査する。その中で、例示している施策を検討し、実効性のあるものに練り上げていくことを考えている。
- 区はこれから施策を考えるということであったが、全部を積み上げて作るのではなく、目標ベースで頑張るというのも、新しい計画のあり方である。できないから目標を低くするのではなく、目標を達成するための施策を後から積み上げていく計画というのもあると思う。
- 全般的な話として、スケジュールに関し、パブリックコメントで区民の意見をいただくタイミングはどうなっているのか。スケジュールの中に区民意見をいただく機会を明記していただけるとよい。
 - ⇒（環境計画課長）区民意見募集については、7月の審議会において素案をご議論

いただいた後、実施する。

- ・まちづくり団体、若者の意見を聴くなど、計画を作るだけでなく、実行する段階でも意見を聴き、ステップアップしていくことも大事だと思う。

●ごみ・リサイクル

- ・区民一人当たりのごみ排出量はどのように出しているのか。
⇒（清掃・リサイクル部）区内のごみの収集量（可燃・不燃・粗大）を区の人口で割って、さらに365日で割って出している。
- ・区民のごみの排出量や事業者のごみの排出量はどのように推移しているか。
⇒（清掃・リサイクル部）減少傾向にあったが、去年はコロナの影響で家庭ごみが増加に転じた。
- ・ごみについては、民間業者の排出量も把握し、もっと正確な区民一人当たりの目標値を検討してほしい。
※令和3年第2回環境審議会審議資料1－8にて回答
- ・ショッピングバッグ等を用意し、ごみ処理にかかる処理費用を載せるのもいいのではないか。
- ・2Rを進めることでどのようにCO₂削減に結び付くかという観点も必要。
※令和3年第2回環境審議会審議資料1－8にて回答。
- ・ごみ処理の方法を変えることによりCO₂が増えても仕方ないので、ごみを減らすことがどれだけCO₂削減に寄与するのかは、大きな論点だと思う。
※令和3年第2回環境審議会審議資料1－8にて回答。
- ・ごみの削減について、例えば個人は減らしていても事業者が増やしてしまったら意味がない。個人が何をすれば貢献できるのか、具体的に示していけるとよい。また、現在プラスチックは燃えるごみだと思うが、回収場所もない。ドイツなどでは買い取りもしているようだ。
※令和3年第2回環境審議会審議資料1－8にて回答。
- ・集めて燃やす場合に発生するCO₂と回収しリサイクルする場合に発生するCO₂について、今後の検討のために資料を提供していただきたい。
※令和3年第2回環境審議会審議資料1－8別紙2にて回答。
- ・これまでは廃プラを燃焼させて熱利用していたが、このままでよいのか検討すべき。また、区民一人ひとりの行動を計画で示すべきという意見が上がっていたが、分別という行動で示すこともできると思う。
- ・ごみの収集量によるコストについて、区民へのごみ分別説明資料に記載すれば、広く周知できるのではないか。
⇒（清掃・リサイクル部）1トン当たり5万円の費用が掛かっている。区のホームページに資料を掲載しているが、コストについて考えてもらう良い機会と捉え、区民への周知方法について検討していきたい。
- ・プラスチックの分別収集について今後検討を進めるとのことだが、誰にでもわかる

収集方法を示してほしい。

- ・プラスチック資源循環について、今後議論していくとのことであった。今後はケミカルリサイクルの比率を高める方向性だと思うが、問題は家庭から排出されるごみではないか。食品トレイはスーパーの入り口に回収ボックスがあるという程度で、分別して出せる場が少ない。経費は別問題として、資源ごみの日にプラを分別回収することについて議論してほしい。

⇒（清掃・リサイクル部）現在はサーマルリサイクル中心だが、そこから一歩踏み出すために、来年度から清掃・リサイクル審議会でも議論をはじめ。ペットボトルは2週間に1回資源分別回収しているが、ペットボトルは、汚れが少なく、PETという単一素材のためリサイクルすることが容易であることから、分別回収を実施している。しかし、素材が多岐にわたる、その他プラスチック製品全般をリサイクルする場合は、素材ごとに選別する工程や汚れたものの除去などの困難さに加え、材料リサイクルを行う場合、(PE、PP以外の)回収した約1/2の量が(サーマルリサイクル等で)焼却されるという問題がある。これらのことを含め、実施に向け検討することになる。

- ・世田谷区には清掃工場が2か所あるが、その熱を温水プール程度しか利用していない。あの火力で結構な発電ができると思う。今後の建て替え時などに検討していただきたい。

⇒（清掃・リサイクル部長）清掃工場では、廃熱利用だけでなく発電も行っている。まだ発電量として少ないので、東京23区清掃一部事務組合において、発電効率や発電量を上げることも検討はしている。

- ・東京23区清掃一部事務組合一組で取り組んでいるので世田谷だけで囲い込みはできないと思うが、熱は近隣で使うしかないの、区内でできることはまだあると思う。（この件に限らず、）議論全体を通して重要なポイントは、区が権限を持っていることは何かということ。区の財産の活用、区民のルールは、区が独自にできることなので、それを使ってできることをどんどん出してほしい。

●再生可能エネルギー等

- ・水素についても今後テーマになると思う。また、太陽光パネルによる森林破壊や景観破壊について問題になっているが、その点についても整理すべき。
- ・建物レベルでできる対策は進めるべきだが、集合体としてももう少し対策ができないか。太陽光発電を進めていくが、電力の使用量はオフィスと家庭で使う時間が違う。建物の形状によって日陰が生じて太陽光が生かせないといった問題も生じる。太陽光パネルが効率的に使えるような建物形態の誘導など建物単体だけでなく、集合体としての対策もあると思う。世田谷区が率先して、世の中の制度を変えていくという動きがあってもよい。
- ・世田谷区では再生可能エネルギーの中で風力発電が難しいことから、太陽光発電が

主となっていると思う。現在、太陽光発電パネルのほとんどが〇〇製であり、経済的なリスクの観点から懸念がある。日本製で高効率のものが出てきている。国産もしくはは経済的に日本と近いスタンスの国から調達することを明記できないか。

⇒（環境・エネルギー施策推進課）太陽光パネルの製品について、〇〇製が多いのは、市場の現状だと認識している。区で選定する場合には、出力の状況とか、その製品自体がどのようなものかを見極めた上で、事業者選定などに当たっているとところである。ご指摘の部分も、その製品としてどう見るかというところで、区の中で取り入れる際にそういった視点もあることは念頭に置きながらできればとは思っている。

・（太陽光パネルについて）廃棄、リサイクルについても言及した方が、世田谷区の決意を見せる上で重要ではないか。

⇒（環境・エネルギー施策推進課）廃棄になることを考えると、将来的にはリサイクルの点も非常に重要だと思う。ただ、（選定の際は）現在使用しているパネルの耐用年数などの、最初の選定の条件に合うかどうかで判断していくものと思われるので、日本製やリサイクルできるものを取り入れるとは、この時点では言えない。そういった視点もあるということで念頭に置きたい。

⇒（環境政策部長）補足となるが、東京都においても太陽光パネルの設置を促進するに当たり、リサイクルのあり方の検討を始めている。区として、都の動きは注視していきたい。

・（太陽光パネルについて）役所としては、内外無差別が基本姿勢だと思うので、国際関係による選別には取り組めないのではないかと。国内の技術開発によって、今後、窓、壁面、農地への太陽光パネル導入も可能になる。そういったものを積極的に導入していくことが考えられる。また、PPA（電力販売契約）モデルは、所有者の代替わりの際の継承も課題になる。そういったことも考慮しながら世田谷モデルを構築できるとよい。住宅都市にある資源としては、太陽光が一番である。

・ある大学では、外を歩く人に発電量のモニターが見えるように設置している。子どもたちの環境教育も重要だが、地域住民にも伝わるように工夫してほしい。

・再生可能エネルギーについては、風力、潮力（波）を地方創成で区が盛り上げていくこともあり得るのではないかと。

●環境教育

・環境教育については、今後はより丁寧に行っていくべきと考える。

●その他

・ESG投資という論点が取り上げられているが、区はこれをどのように支援していくか、検討してほしい。

・環境省の補助金、交付金の活用、脱炭素モデル地域へのエントリーをぜひ考えていただきたい。